

## 第十四講 古代オリエントの帝王観：古代オリエントの政治文化

### キュロスの円筒碑文

キュロスがバビロンの正当な支配者として自己主張したもの

### マルドゥク神についての定義

1～2：天地のすべてを統べる王、世界の隅々を査閲される

### 前王朝の悪行と倒されるべき理由

3～9：卑しい人物、偽物を用意、Esagil の偽物、相応しくない儀式、不純な食物、  
無礼な・・・、奉納の中断、妨害、聖域の中に・・・を設ける、マルドゥク  
への恐れへの念の消失

都市への悪行、民への破滅

神々（の像）をバビロンに移す

### 前王朝打倒は神による命令

10～12：神々を Shuanna（バビロン）に集めたことに対する怒り、すべての国々  
を調べる、正しい王としてキュロスを選ぶ

「彼は Anshan の王キュロスの手を取り、彼に万物に対する王権を宣言」「彼の  
名を呼ぶ」

### キュロスが選ばれた理由

13：Guti とメディアの征服、黒髪の民を公正に導く

### マルドゥクのキュロスに対する命令

14～15：バビロンへの遠征を命じる、キュロスの傍らをともに歩く

### バビロン遠征とその結果

16～19：「川の水のごとく、数えることのできない」大部隊のバビロン遠征、戦う  
ことなくバビロンを占領、バビロンを苦痛から解放、ナボニドスを引き渡さ  
れる、Tintir バビロンの、シュメールとアッカドの地の民と貴族、知事たち  
の「喜び」をもって服属

### キュロスの宣言

20：世界の支配者という定型

「余は、世界の王、偉大な王、力強き王、バビロンの王、シュメールとアッ  
カドの王、四方世界の王、キュロスなり」

21～22：キュロスの血統を名乗る定型

「偉大な王、Anshan の町の王であるカンビュセスの息子にして、偉大な王、

Anshan の（町の）王であるキュロスの孫にして、偉大な王、Anshan の町の王であるテイスペスの子孫にして、／絶えること無き王権の種」

22：王権神授の理念

「その支配をベール（マルドゥク）とナブは愛され、その王権に味方して」

23：支配者としての徳：寛大さと神々への畏敬の念：前王朝の不徳と対象化

24：バビロン占領が平和裏に行われたことを強調

「余の大部隊はバビロン市内を平和裏に行進し」

25：前王朝下にバビロン市民が味わってきた苦渋

「頸木に耐えて来た」

26：マルドゥク神の祝福

27～30：周辺諸国の自主的服属

30～34：ナボニドスがバビロンに集めた神々の像を元の町に戻す

34～36：キュロスとカンビュセスへの神の加護を願う

36～43：キュロスの政策の内容

犠牲の奉納、城壁の強化、河川堤の構築、船着場の建設、神殿の修築

44～45：マルドゥク神への嘆願

古代オリエントにみられる定型の君主観

最初に世界の王、諸王の王、シュメールとアッカドの王・・・・という名乗り

神により選ばれたもの

前任者の非道、そして神の怒り

正義の回復の為に神が探される

神の命によって正義を回復した

その改革は民に喜びを持って迎えられた

ウルカギナの改革碑文との比較

ハムラビ法典前文との比較

善政の列挙

神の喜びと祝福

神に愛されるものという自己規定

アケメネス朝の独自の論理

祖先とのつながり

比較：ダレイオスのベヒストゥン碑文

血統による正当化